

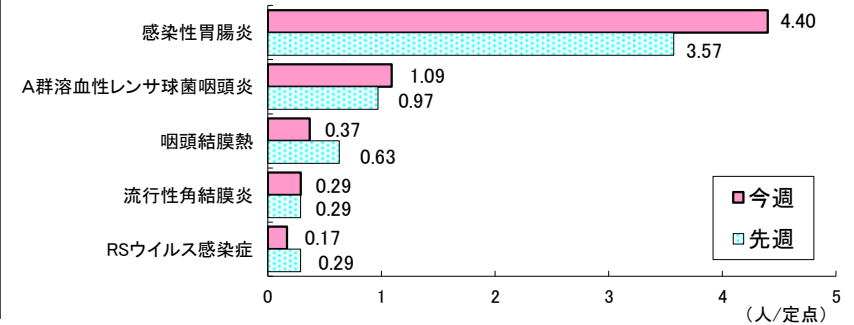


【第24週の発生動向】

＜定点把握対象疾患(週報)・前週比＞

1. 感染性胃腸炎は、県全体で23%増加しています。保健所別では、秋田市、大館、北秋田、能代、秋田中央、横手で増加、湯沢で同規模、由利本荘、大仙で減少しています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で12%増加しています。保健所別では、大館、秋田中央、大仙、湯沢で増加、横手で同規模、秋田市、能代、由利本荘で減少しています。
3. 咽頭結膜熱は、県全体で41%減少しています。保健所別では、大館、北秋田、由利本荘で増加、秋田市、秋田中央、大仙、湯沢で減少しています。

秋田県の定点医療機関における主要5疾患の発生規模



発生報告

＜五類定点対象疾患(週報)＞

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢		
	第23週	第24週	増減	第23週	第24週	増減	第23週	第24週	増減	第23週	第24週	増減	第23週	第24週	増減	第23週	第24週	増減	第23週	第24週	増減	第23週	第24週	増減	第23週	第24週	増減			
RSウイルス感染症	0.29	0.17	↘	0.43	0.43									0.75	↗	1.25		↘	0.25		↘						0.25		↘	
インフルエンザ	0.06	0.02	↘				0.43	0.14	↘																					
咽頭結膜熱	0.63	0.37	↘	1.00	0.14	↘	0.25	0.50	↗		0.50	↗				1.00		↘		1.25	↗	1.25	0.50	↘			1.25	0.50	↘	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.97	1.09	↗	2.29	1.43	↘		0.25	↗				0.67		↘	1.75	3.25	↗	0.25		↘	0.25	1.50	↗	0.33	0.33		1.50	1.75	↗
感染性胃腸炎	3.57	4.40	↗	4.00	6.00	↗	8.25	10.50	↗	2.00	2.50	↗	5.67	7.67	↗	1.75	2.25	↗	0.50	0.25	↘	3.25	1.50	↘	1.33	3.00	↗	4.25	4.25	
水痘	0.17	0.11	↘	0.29	0.14	↘										0.25	↗					0.25	↗			0.33	↗	1.00		↘
手足口病		0.11	↗		0.14	↗															0.50	↗				0.33	↗			
伝染性紅斑																														
突発性発しん	0.23	0.17	↘	0.57	0.29	↘	0.50	0.50												0.25		↘	0.25	0.50	↗					
ヘルパンギーナ	0.09	0.03	↘										0.33		↘													0.25	↗	
流行性耳下腺炎	0.17	0.03	↘	0.29		↘	0.50		↘													0.50	0.25	↘						
川崎病																														
急性出血性結膜炎										*	*		*	*		*	*										*	*		
流行性角結膜炎	0.29	0.29		0.67	0.67					*	*		*	*		*	*										*	*		
細菌性髄膜炎																*	*													
無菌性髄膜炎																*	*													
マイコプラズマ肺炎	1.38	1.75	↗	1.00		↘				3.00	5.00	↗				*	*					3.00	3.00				4.00	6.00	↗	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)																*	*													
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)	0.38	0.13	↘							3.00		↘				*	*										1.00	↗		

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。
 「*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

- ・二類感染症の結核が秋田市保健所管内から1人、報告されました。
- ・五類感染症の百日咳が秋田市保健所管内から1人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	1週-23週		24週
		全国	秋田	秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
二類	ラッサ熱			
	急性灰白髄炎			
	結核	9064	48	1
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
三類	コレラ		2	
	細菌性赤痢		87	
	腸管出血性大腸菌感染症		664	2
	腸チフス		18	
	バラチフス		10	
四類	E型肝炎	172		
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	388		
	エキノкокクス症	5		
	黄熱			
	オウム病	3		
	オムスク出血熱			
	回帰熱			
	キャサナル森林病			
	Q熱	1		
	狂犬病			
	コクシジオイデス症			
	サル痘			
	ジカウイルス感染症			
	重症熱性血小板減少症候群	31		
	腎症候性出血熱			
	西部ウマ脳炎			
	タニ媒介脳炎	1		
	炭疽			

トピックス

<日本脳炎の予防接種はお済みですか？>

県内も梅雨入りし、夏の訪れを感じられるようになりました。夏はレジャーや花火など野外活動を楽しむ機会が多くなりますが、蚊に刺されて不快な思いをする季節でもあります。蚊に刺されるとひどい痒みが生じるだけではなく、感染症という重大な事態を招く場合もあります。蚊が媒介する感染症という、海外で発生する疾患という印象が強いかもしれませんが、国内でも毎年、日本脳炎の発生が報告されていますので、油断は禁物です。

■日本脳炎とは

蚊を介して日本脳炎ウイルス(JEV)に感染することで起こる感染症です。国内での患者発生は生活環境が整備された1970年代以降減少傾向にあるものの、近年でも西日本を中心に毎年数件報告されています(表)。また、患者が報告されていない地域でも、JEVの増幅動物*であるブタの調査からは、JEVが確認されています(図)。*増幅動物:感染すると体内でウイルスが増殖するが、発症はしない動物

■予防について

もしJEVに感染したとしても、実際に日本脳炎を発症するのは100～1000人に1人とされています。しかし、いったん発症すると死亡率は20～40%と高く、回復後も重篤な後遺症を残すことの多い疾患です。そのため、防虫スプレー等を使用して**蚊に刺されないように**することや、しっかりと**予防接種を受ける**等の予防対策が極めて重要です。日本脳炎の予防接種は、第1期(生後6ヶ月～90ヶ月の間に3回)と第2期(9歳～13歳未満に1回)の**計4回分**を定期接種として無料で受けることができます。なお、積極的な勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方への特例として、1995年4月2日から2007年4月1日生まれの方は、20歳の誕生日前であれば不足分を定期接種として受けることができます。また、2007年4月2日から2009年10月1日生まれの方は、9歳～13歳未満までは不足分を定期接種として受けることができます。まだ接種がお済みでない方は、蚊の活動が本格化する前にご検討ください。

表 国内における日本脳炎発生報告数(2008年～2017年)

年	報告数	報告地
2008年	3	茨城県(2)、愛知県(1)
2009年	3	大阪府(1)、高知県(1)、熊本県(1)
2010年	4	三重県(1)、山口県(1)、高知県(1)、長崎県(1)
2011年	9	東京都(1)、山口県(1)、福岡県(4)、長崎県(2)、沖縄県(1)
2012年	2	福岡県(1)、熊本県(1)
2013年	9	三重県(1)、京都府(2)、兵庫県(1)、岡山県(1)、徳島県(1)、長崎県(1)、熊本県(2)
2014年	2	兵庫県(1)、熊本県(1)
2015年	2	千葉県(1)、奈良県(1)
2016年	11	茨城県(1)、山梨県(1)、静岡県(1)、和歌山県(1)、鳥取県(2)、岡山県(1)、長崎県(4)
2017年	3	広島県(2)、大分県(1)

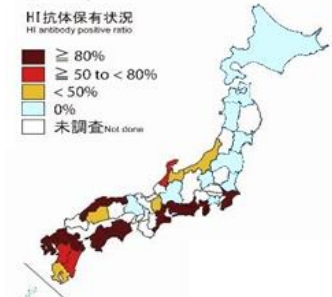


図 ブタの日本脳炎ウイルスHI抗体保有状況(2017年度)<国立感染症研究所HP参照>

※色分けは、調査期間中の抗体陽性率の最高値を示しています。
※2016年度は秋田県も、< 50%に区分されました。



感染性胃腸炎情報

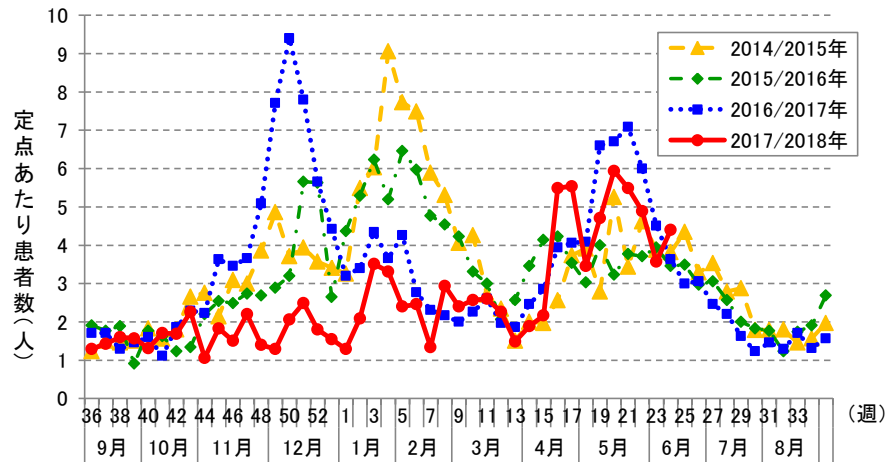


図:秋田県における感染性胃腸炎の発生状況

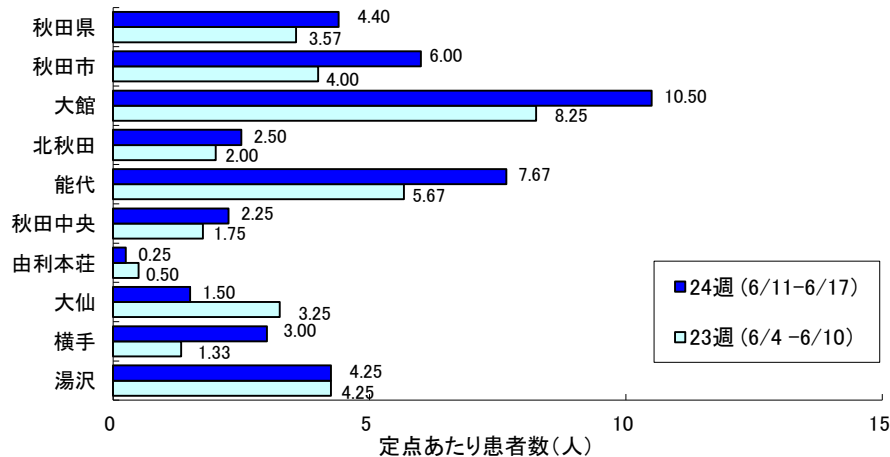


図:秋田県各保健所における感染性胃腸炎の発生状況

社会福祉施設等における感染性胃腸炎の集団発生について

感染性胃腸炎の集団発生報告が2件ありました。

No. 20

発生届出日 平成30年6月15日
 受付保健所 湯沢保健所
 施設名称 認定こども園たしろこども園
 有症者数 園児36名のうち14名
 職員13名のうち1名 計15名
 把握期間 6月11日から6月15日まで
 症状 嘔吐、下痢、腹痛、発熱
 検査状況 6名からノロウイルスを検出

No. 21

発生届出日 平成30年6月18日
 受付保健所 横手保健所
 施設名称 みいりの保育園
 有症者数 園児97名のうち19名
 把握期間 6月13日から6月18日まで
 症状 嘔吐、下痢
 検査状況 4名からノロウイルスを検出

★感染性胃腸炎の集団発生状況

平成30年度 21施設 発症者 327名
 <保育所・幼稚園 21>

【参考】

平成29年度 42施設 発症者 637名
 <社会福祉施設 8、保育所・幼稚園 34>

※原則、10人以上または利用者の半数以上の発生報告です。

感染症の集団発生報告

流行性角結膜炎の集団発生報告が1件ありました。

発生届出日 平成30年6月12日
 受付保健所 北秋田保健所
 施設名称 認定こども園しゃろーむ
 有症者数 園児114名のうち8名
 職員41名のうち3名 計11名
 把握期間 5月25日から6月12日まで

かぜ様症状の集団発生報告が1件ありました。

発生届出日 平成30年6月19日
 受付保健所 大館保健所
 施設名称 大館カトリック幼稚園・保育園
 有症者数 園児123名のうち19名
 把握期間 6月12日から6月19日まで



【注意報・警報の発生状況】

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
注意報・警報はありません。		

■ 注意報・警報の定義

【注意報・警報の定義】

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報			対象疾患	警報		
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	4	7	4	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		